<表－1>使用配管材料一覧表

規格			用途・種別・施工部位														備考（接合工法等）
			給水管		給湯管	排水管		通気管	消火管			ガス管		油管			
名称	番号	備考	一般	地中埋設		屋内	屋外		水系		ガス系	一般	地中埋設	一般	暗渠内	地中埋設	
									一般	埋設							
【給水及び給湯管】																	
水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116	SGP-VA	○			▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾌﾗﾝｼﾞ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ
〃	〃	SGP-VB	○			▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾌﾗﾝｼﾞ
〃	〃	SGP-VD		○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾌﾗﾝｼﾞ
水道用耐熱性硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 140	SGP-HVA			○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ
水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 132	SGP-PB	○			▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾌﾗﾝｼﾞ
〃	〃	SGP-PD		○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾌﾗﾝｼﾞ
一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼鋼管	JIS G 3448		○	○	○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□圧縮・ﾌﾟﾚｽ □ 拡管式 □ ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ （給湯管にｽﾃﾝﾚｽ鋼管を使用する場合の保温材は、保温材ﾒｰｶｰ推奨品とする。）
銅及び銅合金継目無管	JIS H 3300	硬質(M)	○		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□熱溶着 □電気融着 □ﾒｶﾆｶﾙ
外面被覆銅管	JIS H3330		○		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	
保温付被覆銅管	JCDA 0008		○		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	JIS H 3300の外面に発泡断熱材（厚さ14mm以上）で被覆したもの
水道用硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6742	VP又はHIVP	○	○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□接着（TS） □ｺﾞﾑ輪(RR)
水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ二層管	JIS K 6762			○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□軟質管・ﾒｶﾆｶﾙ □硬質管・ﾒｶﾆｶﾙ
水道配水用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	JWWA K 144			○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□電気融着 □ﾒｶﾆｶﾙ
ﾎﾟﾘﾌﾞﾃﾝ管	JIS K 6778		○		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□熱融着 □電気融着 □ﾒｶﾆｶﾙ
ﾅｲﾛﾝｺｰﾃｨﾝｸﾞ鋼管	WSP067	SGP-FNP SGP-RNP	○			▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ﾌﾗﾝｼﾞ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ
【排水及び通気管】																	
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管	▨	▨	▨	○			▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管	▨	▨	▨			○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ □溶接
排水用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	WSP 042		▨	▨	▨	○		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ＭＤ
排水用ﾉﾝﾀｰﾙｴﾎﾟｷｼ塗装鋼管	WSP 032		▨	▨	▨	○		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ＭＤ
排水用塩化ﾋﾞﾆﾙｺｰﾃｨﾝｸﾞ鋼管			▨	▨	▨	○		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ＭＤ
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741	VP	▨	▨	▨	○	○	○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□接着（DV） □ｺﾞﾑ輪（RR）
〃	〃	ｶﾗｰVP	▨	▨	▨	○	○	○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□接着（DV） □ｺﾞﾑ輪（RR）
〃	〃	VU	▨	▨	▨		○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□接着（VU） □ｺﾞﾑ輪（RR）
排水用ﾘｻｲｸﾙ硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	AS － 58	REP-VU	▨	▨	▨		○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□接着（VU） □ｺﾞﾑ輪（RR）
ﾘｻｲｸﾙ硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ発泡三層管	JIS K 9798	RF-VP	▨	▨	▨	○			▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□接着（DV） □ｺﾞﾑ輪（RR）
ﾘｻｲｸﾙ硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ三層管	JIS K 9797	RS-VU	▨	▨	▨		○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□接着（VU） □ｺﾞﾑ輪（RR）
耐火二層管			▨	▨	▨	○		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□接着（DV） □ｺﾞﾑ輪（RR） 国土交通省認定品
ｺﾝｸﾘｰﾄ管	JIS A 537	外圧管1種のB形	▨	▨	▨		○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ｿｹｯﾄ接合（B形）
【消火管】																	
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452		▨	▨	▨	▨	▨	▨	○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ □溶接
圧力配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3454	STPG 370白管 Sch40	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾌﾗﾝｼﾞ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ
消火用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙ外面被覆鋼管	WSP 041	SGP-VS	▨	▨	▨	▨	▨	▨		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ
一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼鋼管	JIS G 3448		▨	▨	▨	▨	▨	▨	○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	□圧縮・ﾌﾟﾚｽ □拡管式 □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ
ﾅｲﾛﾝｺｰﾃｨﾝｸﾞ鋼管	WSP067	SGP-FNP SGP-RNP	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ﾌﾗﾝｼﾞ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ
【ｶﾞｽ管及び油管】																	
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○					□ねじ
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ被覆鋼管	JIS G 3469	PLS	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○	○				□ねじ □溶接
〃	JIS G 3469	PLP	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨		○				□溶接
ｶﾞｽ用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	JIS K 6774		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨		○				□熱溶着 □電気融着 □ﾒｶﾆｶﾙ
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	黒管	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨			○			□ねじ □溶接
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ被覆鋼管	JIS G 3469	PLS	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨			○	○	○	□ねじ □溶接
〃	JIS G 3469	PLP	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨					○	□溶接

（注）● 印及び■ 印を適用する。

規格			用途・種別・施工部位												備考（接合工法等）
			冷温水管	冷却水管	蒸気管		油管			冷媒管	ドレン排水管	補給水管	空気抜管	膨張管	
名称	番号	備考			給気管	還管	一般	暗渠内	地中埋設						
【冷温水及び冷却水管】															
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管	○	○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ □溶接
水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116	SGP-VA		○	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □ﾌﾗﾝｼﾞ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ
一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼鋼管	JIS G 3448	SUS 304	○		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	□圧縮・ﾌﾟﾚｽ □拡管式 □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ （温水管にｽﾃﾝﾚｽ鋼管を使用する場合の保温材は、保温材ﾒｰｶｰ推奨品とする。）
【蒸気管及び油管】															
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	黒管	▨	▨	○		○			▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □溶接
圧力配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3454	STPG 370 黒管Sch40	▨	▨	○	○				▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ □溶接
一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼鋼管	JIS G 3448	SUS 304	▨	▨		○				▨	▨	▨	▨	▨	□溶接 □フランジ
ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ被覆鋼管	JIS G 3469	PLS	▨	▨			○	○	○	▨	▨	▨	▨	▨	□ねじ
〃	JIS G 3469	PLP	▨	▨					○	▨	▨	▨	▨	▨	□溶接
【冷媒管】															
断熱材被覆銅管	原管はJIS H 3300による		▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○	▨	▨	▨	▨	液管： □保温厚10mm以上 ｶﾞｽ管：□保温厚20mm以上
【空調ﾄﾞﾚﾝ排水管】															
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○	▨	▨	▨	□ねじ □ＭＤ
硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741	VP	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○	▨	▨	▨	□接着（TS） □ｺﾞﾑ輪（RR）
〃	〃	ｶﾗｰVP	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○	▨	▨	▨	□接着（TS） □ｺﾞﾑ輪（RR）
【補給水管】															
水道用硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116	SGP-VA	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○	▨	▨	□ねじ □ﾌﾗﾝｼﾞ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ
【空気抜き管】															
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○	▨	□ねじ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ □溶接
【膨張管】															
配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	白管	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	▨	○	□ねじ □ﾊｳｼﾞﾝｸﾞ □溶接

（注）● 印及び■ 印を適用する。
各項目で縦に２つ以上●がある場合、管種と使用部位は下記による。
（記載例）給水管一般：SGP-VA（ PS内 ）、ポリブデン管（ 住戸内 ）

<表－2>「発生材の処理等」

1．再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再生資材名	規格	使用箇所	再資源化施設名・所在地	備考

2．建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発注機関	工事名	発生場所	施工会社名・連絡先	備考

3．建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出すること。

受入工事名/施設名称			
工事場所/施設所在地			
連絡先			
仮置場所の有無			
備考			

4．建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものとし積算している。

搬出する廃棄物名					
処理施設名称					
施設所在地					
連絡先					
備考					

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、請負者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、請負者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

5．建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、同法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

6．自ら産業廃棄物を運搬・処分する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

7．協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定や条件によりがたい場合は、速やかに監督員に報告し、協議すること。

<表ー3>工事区分表

注） 原則○印を適用する。

項目		本工事	建築工事	電気工事
■躯体関係				
1. RC造（梁・壁・床）の貫通孔・開口部	貫通スリーブ材及び取付け	○		
	補強を要する型枠材及び取付け		○	
	補強を要しない型枠材及び取付け	○		
	貫通孔・開口部の墨出し	○		
	貫通孔・開口部の補強		○	
	スリーブ・型枠の穴埋め	○		
2. S・SRC造・梁貫通口	S・SRC造貫通鋼管スリーブ・補強		○	
	使用されたスリーブの穴埋め	○		
	予備スリーブの穴埋め	○		
3. 設備機器の基礎	建築設計図に記入のあるもの		○	
	室内の基礎（建築設計図に記入のないもの）	○		
	屋外・屋上の基礎		○	
	屋上基礎で押えコンにアンカーしない軽微なもの	○		
	機器取付け用アンカー・架台	○		
	屋内受水タンク用の基礎		○	
■仕上げ関係				
軽鉄天井・壁下地	補強を要するボードの切り込み及び下地の補強		○	
	補強を要しないボードの切り込み	○		
	開口部の墨出し	○		
■電気関係				
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地線共）	○		
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線			○
	機器と付属操作リモコン等の取付け及び渡り配管配線	○		
■その他（工事区分を特に間違えやすい項目）				
天井材の取外し再取付	各種配管配線作業用		○	
床はつり補修	各種配管配線作業用		○	
流し台、ガス台			○	
便所手洗い・カウンター	衛生陶器は衛生設備		○	
洗面化粧台		○		
ガス漏れ警報器		○		
24H換気扇連動スイッチ	機器納入	○		
	取付			○
湯沸器連動スイッチ	機器納入	○		
	取付			○

Ⅲ．改修特記仕様

1 一般共通事項

1. 施工条件
施工場所の設備機能停止に伴う非施工場所の代替え設備。 [1-1.3.3]
※設けない ・設ける（図示による）
天井解体の条件に従い、天井内の機器、配管及びダクト等を施工する。
天井解体の条件 ※ 建築工事 ・本工事（図示による）
工事車両の駐車場及び資機材置場については、次による。
※敷地内 ・敷地外（受注者の手配とする）

2. 再使用品
状態、性能及び機能等、取外し前に行う確認項目は、監督員と協議する。 [1-1.4.3]
取外した機器は、清掃又は洗浄等を行う。

3. 固定された備品、机・ﾛｯｶｰ等の移動
※別途工事 ・本工事（図示による）

4. 本工事で設置する仮設
・ 足場 [1-2.2.1]
内部足場の種別 ※ Ａ ～ Ｄ 種 ・ Ｅ 種 ・ Ｆ 種 ・ Ｇ 種
外部足場の種別 ※ Ａ， Ｃ 種 ・ Ｂ 種 ・ Ｄ 種 ・ Ｅ 種
外部足場は枠組足場とする。
足場を設置する場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省 基発１２２６第２号令和５年１２月２６日）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」の２の（１）手すり据置き方式又は（２）手すり先行専用足場方式により行うこと。
・ 仮設間仕切り ※ Ａ 種 ・ Ｂ 種 ・ Ｃ 種 [1-2.2.3]

5. 養生
※別途工事 ・本工事（図示による） [1-3.1.1]

6. 内容物の回収
撤去前に内容物の回収を要する機器及び配管は図示による。 [1-4.1.1]
・冷媒 ・吸収液 ・廃油

7. 撤去作業の安全対策
アスベスト含有材については次による。 [1-4.1.2]
・アスベスト含有材使用箇所（ ）
・本工事により含有について分析を実施する（箇所： ）
・撤去箇所は図示による。
上記の他、撤去部にアスベスト含有の懸念がある場合は監督員と協議する。 [1-4.2.1]

8. 撤去跡の補修
壁付け機器、床置き機器及び天井付け機器撤去跡の取付けボルト孔、壁面、天井面の変色等の補修及び床補修等は、次による。 [1-4.2.5]
※建築工事 ・本工事（図示による）
床、壁及び天井等の撤去後の開口部について、補修の方法及び仕上げの仕様は、次による。
※建築工事 ・本工事（図示による）

2 共通工事

1. 既設配管の撤去
既設配管の撤去範囲は図示による。ただし、その位置で不具合と判断される場合は監督員と協議する。 [2-2.10.2]

2. 既設配管の搬出
下記の撤去材の集積場所は、監督員と協議する。 [2-2.10.3]
（ ）

3. 既設配管の再生
工法 （ ） [2-2.4.11]
調査箇所及びサンプリング個数は、図示による。

4. 地中配管
・ 埋設する部分の舗装等のはつり及び復旧工事の施工範囲及び舗装仕様は、図示による。 [2-2.7.1]
・ 地盤対策は、図示による。
・ 植栽、芝生、舗装、石貼、タイル等の移植及び撤去、復旧並びに再利用品等は、図示による。

5. 試験
システム全体の試験 ※行わない ・行う（ ） [2-2.9.1]
既設配管を含む部分の試験方法は監督員と協議する。

6. はつり及び穴開け
はつり作業を行う場合は、埋設物の調査を行い、埋設配管等に損傷を与えないように行う。 [2-5.1.1]
・ 埋設配管等の確認方法でＸ線法を指定する場合は、図示による。
・ 既存のコンクリート床及び壁等の配管貫通場所及び貫通口径は、図示による。 [2-5.1.3]

7. 既設基礎の解体はつり
・ 解体基礎の仕様（有筋・無筋、防水・非防水、寸法等）は、図示による。 [2-5.1.5]
・ 防水層等の補修は、図示による。
・ 基礎解体、撤去後の床面仕上げ及び補修は、図示による。

8. ｲﾝｻｰﾄ及びｱﾝｶｰ
既存のインサート及びアンカーボルトは原則として使用しない。やむを得ず既存のインサート及びアンカーボルトを再使用する場合は、状態及び強度をよく確認し、十分に清掃してから使用する。 [2-6.1.1]
引張強度の確認試験 ※行わない ・行う（ ）
下記の機器に使用するアンカーは耐震計算を行い選定する。
（ ）
あと施工アンカーの試験は次による。
性能確認試験 ※ 行わない ・ 行う（ ）
施工後確認試験 ※ 行わない ・ 行う（ ）

3 追加特記事項

1. 給水設備
下記の露出配管の保温は、ワンタッチ保温材（硬質ウレタンフォーム２０mm）を使用する。
・ シャワー室

2. 給油設備
配管材料は、<表－１>「使用配管材料一覧表」のとおり。
弁は、マレアブル玉形弁とする。
試験は、空気圧縮試験とし、最大常用圧力の1.5倍の圧力とする。試験結果のチャートを提出する。

<用語の説明>
（１）「撤去」とは、既存物を壊し取ること。
（２）「取外し」とは、再利用を考慮して、丁寧に外すこと。
（３）「撤去・新設」とは、既存物を撤去し、新たな物を設置すること。
（４）「取外し・再取付け」とは、既存物を取外し、同じ物を取付けること。
（５）「備品移動」とは、工事の施工に支障となる備品を一時別の場所に保管し、工事終了後に元の場所に戻すこと。
（６）「移動」とは、既存物を取外し、取付場所を変更して再取付すること。

変更

発注者 新潟県土木部都市局営繕課

○ ○ ○ ○ 設 計 事 務 所

工事名称 ○○○○○○○○工事
図面名称 機械設備工事仕様書（２） Ver.070401
縮尺 Free
図面番号 M-*
意 電
構 機